昭和62年6月発行　　第12号

東京龍門会報

発行所
東京都江東区塩浜2－4－20
深川物流センター7階
今村電機株式会社内
電話 03（699）3791～2
東京龍門会
発行人
今村　彬

東京龍門会会員一同
総会と母校の創立90周年を祝う

総会参加者の面々

明治30年に開校して以来90年、今日まで一四八五五名多士済々の卒業生を世に送り出した。この伝統ある母校の記念すべき年に、昭和62年度の東京龍門会総会が、去る五月十六日の土曜日、例年の会場である三州クラブ（品川区上大崎）で開催された。

総会には大正12年に卒業（高女は昭和5年卒業）された大先輩から、昭和57年の卒業生までの老若男女約160名の同窓生が参加され、会場はぎっしりと埋めつくされた。そして郷里から新納数義同窓会長並びに母校の伊地知武志学校長をお迎えし、一同が母校の90周年を祝った。

総会は午後二時三十分開会の辞で始まり、今村東京龍門会会長、新納同窓会会長そして伊地知学校長それに同窓生を代表して村山喜一氏（中38回）よりそれぞれ挨拶が行われた。その後議事の審議に入り61年度の事業活動と会計報告が、続いて62年度の事業計画と予算案の説明が窪田幸男副幹事長からあり、それによると今年度は総会の開催、会報の発行、囲碁・ゴルフ・釣り等同好者の集い、母校90周年記念行事への協力・参加、そして会員組織のPRなどが計画案として示され、いずれも満場一致で承認された。

総会が終りパーティに移った。パーティでは郷里の焼酎「さつま隼人」で盃を交わし綿袍恋恋の話に花が咲き午後五時半頃またの再会を約し散会した。

なお総会のために国分和夫氏（中24回）、中馬辰猪氏（中32回）よりご寄附をいただき、村山喜一氏よりビールを、浅草橋の誠鏡（池田順子・高3回）から清酒が、そして隼人町の川路酒店（吉丸正志・高3回）から古里の焼酎「さつま隼人」の寄贈があった。また前田稔氏（中9回）からは90周年のお祝いとして府中市の銘菓〝武蔵野〟が贈られみんなで美味しくいただいた。これらの方々には紙上をかりて厚くお礼申しあげます。

鹿児島弁を子孫に継承させよう、と新納同窓会長の話、国内では方言扱いされているが外国の専門家から見れば、独自の言葉を持つ集団は独自の文化を持ち独立心の旺盛な集団である。鹿児島弁は今忘れ去られようとしている。この独自の言葉を保存したい。

山岳部が優勝　伊知地学校

長は母校の近況報告で進学・クラブ活動共に上昇、観劇会等文化活動には教育振興会助成の恩恵を受けているとの話があり記念行事は次の通り。

○創立90周年記念行事の案内

とき　昭和62年9月19日(土)

ところ　加治木高等学校

行事内容　●慰霊祭9時20分～9時40分　●記念式典10時～10時50分　●記念講演11時～12時　●文化スポーツ交歓会12時～13時30分　●祝賀会13時30分～15時30分（協賛会員券二千円　申込み8月25日迄）

〈会長挨拶〉

母校90周年を機に深めよう親睦の輪

東京龍門会会長　今村　彬（高2回）

母校の90周年という記念すべき年に、62年度東京龍門会の総会を開催するに当り、例年にない多数の同窓生のご参加と、新納同窓会長及び伊知地学校長のご臨席をいただき心からお礼申しあげます。母校を始め各地区の同窓会で90周年を祝いろいろな催しがあるようです。この様な機会に同期会や、帰郷して学校を見学かたがた旧友と一献かたむける等の話も聞いています。皆さんそれぞれお忙しい年ではないかと思います。どうか事故等ないよう気をつけていただきたいと思います。

一口に90年と申しますが、長寿国になったとはいえ90歳まで生きるということは非常に大変な事だと思います。私等まだ働き盛りと言われていますが、ちょっと無理したり酒が余分に入ったりしますと次の日にはエンストするのではないかと思うぐらいです。今日ご参加されている先輩の三島さん、漆間さん、土屋さん、緒方さん、国分さんといった方々は満で80歳です。それから若松さん、山口さん、法元さん、安田さんといった人も喜寿の祝が終った先輩達です。そのような年には見えず本当に元気な方々ばかりです。東京龍門会にはこのような方が沢山おられます。最年長者は前田稔さんです。明治43年旧中学の第9回卒業生で96歳になられました。今日の総会に案内状を差しあげたのですが、目が不自由なうえ病院通いの身であり、皆さんと話しをしたいのですが、どうか皆さんで龍門会を盛り上げていって下さいと、武蔵野の銘菓をご寄贈いただきました。後で一人一人に大先輩にあやかり、長寿のおすそわけをさせていただきますが本当に頭の下がる思いがいたします。

（別項参照）

龍門会の先輩並びに若い方方をも含め、在京鹿児島県人会の活躍は政界、財界にと巾広く、ご存じのように二階堂進先生が政界に投げられた石の波紋は、大きく話題を呼び郷土の士として何とか実らせられないものかと思っています。それから円高不況、貿易摩擦と我々の身の回りを脅かす問題は山積されています。私も26年ぐらい仕事をしていますが、ことに円高問題では苦慮させられています。二年ぐらい前から製造関係の仕事は、東南アジアその他の国にシフトされて国内ではやっていくのに困難な状態になってきているようです。だからといって仕事をやめるわけにいかず、石にかじりついてでも続けなければなりません。このような状況の中で龍門会の親睦の輪を広げお互い知恵を出し合い、現在の難しい世の中を渡っていってもらいたいものだと思っております。

さて90周年の一環として母校の方で新しく名簿を作成されました。すでにお手元に届いていると思いますが、今回の総会の案内状はその名簿を元に、従来の東京龍門会名簿と照し合わせ二八五〇通を郵送しました。その中で住所が不明で返って来たのが一二四通ありました。住所不明がわずか4％という非常に確度の高い名簿を作成していただきました。それから皆さんにお願いしていました募金活動の方も順調に集まっているそうで、心から感謝している次第でございます。90周年の記念行事が母校で9月に開催されますが、東京龍門会としても一人でも多くの方が参加されますことをお願いいたします。

東京龍門会も同好会等を中心に、親睦の輪を更に広げ充実した会に盛り上げていこうと執行部一同考えておりますので、会員の皆様方のご協力を是非お願いいたします。本日の総会のために多額のご寄附や御品をいただきました方方には深くお礼申しあげます。ありがとうございました。

会場風景

―〈前田稔先輩より〉――――――――――――――――

拝啓　この度は会長始め各位の非常な御尽力により、母校90周年記念の東京龍門会が開催されたことは、洵に御同慶の至りに堪えません。小生としては多分最後の記念

かごしま特産
本格しょうちゅう
金盃　さつま隼人
加治木酒造協業組合
鹿児島県姶良郡隼人町内1103
TEL (09954) 2－2361

総会と思われるこの会合に是非出席したいのですが、老軀外出が難しく、それに昨年末手術した目の治療中のため、済みませんが失礼さして頂きます。御出席の皆さんによろしくお伝え下されたく、お届けした粗菓を御笑納下されば幸甚に存じます。　敬具

昭和六十二年五月十六日

前田　稔

東京龍門会会員各位へ

《同好会だより》

囲碁の部

〝ヘボ碁、ダメもなし〟とからかられるヘボ人から、アマ九段という猛者まで、壮々たる囲碁愛好者が一月十七日(土)三州クラブに勢揃い。プロ名人戦のむこうをはって、東京龍門会囲碁名人争奪戦が行われた。

沈思黙考の中で、試合が進むにつれ「シモタ　マッゴタ」「オマンサー　ゲンネトコイ　ウッチャシタナー」とか「ウンニャ　コアイカン　モヤッセン」などの奇声があがり始め、なんとも格調の高い(?)名人戦の一日であった。

結果はAクラス（有段者）で宮内毅氏(五段・高4回)、Bクラス（一級以下）では上原輝彦氏（五級・高8回）がそれぞれ優勝され豪華な賞品を獲得された。優勝された二人の喜びの声をお届け出来ないのが残念である。

なお名人戦のために日本囲碁在職中の最勝寺哲也氏（高1回）より、プロの囲碁名人サイン入り扇子が、参加賞として全員に贈られた。紙上をかりて厚くお礼申しあげます。次回は昭和六十三年一月十六日(土)に行われる予定です。ふるってご参加ください。

熱戦の一コマ

90周年に因み　想い出ア・ラ・カルト

〈大正世代〉

○中学四年の時、生徒に人気のあった日高武男先生（国語担当）の時間にクラス全員が誰言うともなく授業をさぼり博物教室（田代善太郎先生）で一時間すごした。日高先生は春の通り雨にでも遭われたような態度で一言もエスケープの事に触れられなかった。先生に甘えた我ら一同とった行為を深く恥じ入ったものでした。

（中・大4卒　宇都宮直賢）

○小生米寿を迎え、元軍人ゆえ志気旺盛です。でも足が不自由がち、卒業記念に植えた桜はもう寿命が尽きたでしょうか！

（中・大5卒　秋山邦雄）

○校庭から見た蔵王の秀麗さ、校歌を想い出し時々唄っています。

（中・大11卒　田中邦蔵）

○夏休み前に全校生で暑い中を日木山のトンネルの上を越え、小浜海岸に水泳に行った想い出、多感な女生徒の心理を秘めて……。

（女・大11卒　田方ツル子）

○多くの先生の想い出の中でいまだに忘れられないのが漢文の入部先生（カメサン）漢学者であり哲学者・教育者でした。帰郷したら墓参したいと思う。

（中・大12卒　古江重則）

○忘れ難いことは大正12年9月の関東大震災により修学旅行が中止になったこと。そして女学校卒業時の黒川海岸近くでの謝恩会。その時の情景はおぼろげでも内面的な別離の悲しみだけが鮮烈に瞼に焼きついています。ひたむきで純粋な友情は豪雨にも似て声もかれるほど泣き、時刻を止めたい惜別の情は今想い出しても筆舌につくせない初めて味わった人生の悲しみでした。半世紀以上を経て大正末期の田舎乙女の心情の発露を見るに、あまりにも清らけく、麗しくもまた春愁をも含んでいたことでしょう。時代相の極端に変った現代に生き実に今昔の感に耐えません。学校や高女2回卒の友に長く御無沙汰していますが、故郷を想い明るい感謝の日々を送っている昨今です。

（女・大13卒　今村下枝）

〈昭和初期世代〉

○約60年前の我が加中の上級生が下級生に対する徹底鍛練の一こまである。一年甲組より順次一列縦隊で体育館入口より出口に向って行進する。五年生から貴様は上級生に欠礼した。女学生をからかう、ソバ屋に出入りした。ズボンに折目をつけている等々理由は簡潔、そして間髪を入れず鉄拳の嵐が下級生の両頬に炸烈する。恒例土曜日のあの恐怖低気圧の日を想い出さずにはいられない。ああ!!

（中・昭2卒　大八木敏夫）

○剣道部員として中山・野村先生に鍛えられた。昭和二年の県下中等学校剣道大会で準優勝戦で第一師範学校と対戦し、大将同士の決戦となったが惜敗し優勝戦に進出することが出来なかったこと。

（中・昭3卒　泊　正徳）

○マムシと渾名された日高校長にやがて始まる激動の時局を憂え、口角泡を飛ばして我々を叱咤激励された姿は昨日のことのように瞼に浮かぶ。

（中・昭4卒　岸野　吉）

○四キロ歩き、国分駅からの汽車通学、加治木駅で売っている加治木饅頭を食べたかったが、小遣いをもたされなかったので食べられませんでした。

（中・昭4卒　川原義一）

○卒業の年運動会で一等賞を四回も取った全盛時代が懐かしい。

（女・昭4卒　佐保あきえ）

○校庭の隅にプールを掘ったことや庭球部の主将になり県下中等学校庭球大会（昭4年秋）で決勝戦で敗れたこと。

（中・昭5卒　福田　正）

○新名簿の写真で、昭和四年の運動会の中隊教練の分列式は胸一杯感無量です。中隊長の指揮を小生がやった想い出、八百米競走で二着になった事、一着は亡き日高金吾君だったと思う、またプール開きに勤労奉仕した事等当時の学友の面影を思い出します。

（中・昭6卒　吉川辰見）

○入学した年に大正天皇が崩御され、今上陛下が御即位に昭和となった。この時全校職員生徒が校庭で東方を遙拝した厳粛な気持が忘れられない。

○会費納入にご協力を

○会員所在の情報を

（中・昭6卒　櫨山徹夫）

○宵待草を月見草と思っている人が多い。学生時代久保田先生に月見草は白い花であることを教わった。20年程前に月見草の種子を手に入れたので播いたらまさしく白い花を咲かせた。先生がご存知だったことを尋ねてみたいと思いながら月日は過ぎさるばかりです。

（女・昭9卒　太田シヅ　旧池田）

○山口タンカイ先生に倫理を教わった。京大出身で非常に激しい性格で自由奔放な考え方は我々を魅了した。ジュリアン・デベビウ、小津安二郎の作品は見逃してはならぬ、また宵越しの小金は残すなと言われた。先生は他界されたが今だに心の中で脈動している様に思う。（中・昭14卒　岩間　弥）

○校内の研修館に宿泊し冬のプールに飛込み御歌の朗詠を日高校長が率先し、それにブツブツ言いながら従ったが、今にして思えばバックボーンのある教育者であった。

（中・昭14卒　村山喜一）

○因数分解を教わった代数の長サア（加藤長之助）眼を閉じると声色から少しガニ段で教壇の上をひんぱんに動き廻られるクセまでが鮮明に蘇ってくる。その先生が山陰でご健在なりとの消息が同郷の知人から伝わり、世のめぐり合いの不思議さを痛感している。

（中・昭16卒　豊廣　稔）

○日米開戦間もないころ軍事教練の査閲が行われ、査閲官から「今日本は赫々たる戦果を挙げているがそれは何によるものか」と問われ、「奇襲作戦に成功したからであります」と答えた。一喝されると思いきや「正にその通り、今までの戦捷は不意打ちによるもので、敵は愈々本腰を入れて立ち向ってくる。これからが重大な決戦の時期だ」と述べられたのを昨日の事のように想い出す。

（中・昭17卒　美代文明）

○朝からシャツパンツ姿で農業の指導を熱心にされた作業の原田阿久利先生、私達も葱・キャベツの苗の植替え、水稲の除草、また町へモッコにキャベツや葱を乗せて売りに行った「天地人三才一円融合愛の拡充」は先生の偉大な教え。

（中・昭18卒　浦野八夫）

〈昭和中期世代〉

○卒業を前にして学徒動員で名古屋へ。空襲がはげしく富山県下に転進ここで卒業式。終戦後母校の姿に涙したのは生涯忘れられない。

（中・昭20卒　高橋　渉）

○学徒動員のため富山県下で迎えた卒業で、卒業証書授与の情景を想い出せぬのが一番の想い出かな。

（中・昭20卒　吉尾政廣）

○三つの想い出がある。一は学徒動員、二は空襲による校舎の全焼。三は樟の大樹、一と二には青春の暗影がつきまとうが、太陽に映える樟の大樹にはそれがない、まさに平和そのものだ。加高よ樟の大樹のように平和で永遠なれ!!

（中・昭21卒　山本啓太朗　旧秋良）

○戦争の悲惨を味わう炎天下での焼跡の片付け。お寺の裏での授業。必死になって教えて下さった先生方の面影は未だに忘れられない。

（女・昭21卒　川田洋子）

○昭和20年釜山より引揚げ十月に高女に転入、校舎は焼けてなく、寺小屋よろしくお寺で授業、今では懐しくそして椋鳩十先生の国語も素晴しく想い出に残っています。

（女・昭23卒　大宰昭子　旧潮上）

○昭和20年8月12日母校が焼失した。三代続けて使った自転車や革カバンが焼け失せた事が眼に浮かぶ。死亡された方の冥福を祈ります。

（高・昭25卒　猿渡典行）

○隼人、帖佐における分校授業。それに食糧難、よくもめげずに通学した苦労今では楽しい想い出です。

（高・昭25卒　内田　亨）

○山田から片道二里半の山道を通学。そのためか足腰は今も至極丈夫。弁当は二時間目の終りになくなり腹がもたず、よく五時限・六時限は失礼していました。

（高・昭26卒　玉利勝正）

○終戦時グランドが「カライモ畑」に変り、大収穫に先生と友と笑顔で働いた事を想い出します。

（高・昭26卒　伊福一明）

○寒風ふきあれた隼人のバラック校舎での授業、予科練帰りのコワイ上級生、そして一つのコッペパンを友と分けかじりながら大きな夢を語りあった日々のことが今は懐しい。

（高・昭26卒　泊　忠広）

○三年間早飯早弁を続けそれでも足りず、グランド横のパン屋にかけ込み補足しつづけた。あのパン屋さん今もあるのかな。

（高・昭28卒　肥後芳文）

○トビ魚と言われた古橋広之進さんが母校のプールで泳ぎ、そのダイナミックさが今も瞼に浮かんできます。

（高・昭29卒　伊藤良治）

○隼人から汽車通学、わずかな待ち時間を利用して坊主頭の友と赤フンドシで黒川浜で泳ぎ戯れた。

（高・昭29卒　町田　東）

〈昭和後期世代〉

○男子生徒の修学旅行がなかったことが残念な思いがしています。

（高・昭36卒　森　詔彦）

○恒例の長距離走は練習が大変だったが、身体を鍛える点と自信を得たことでした。

（高・昭37卒　新田義孝）

○平屋の木造校舎で、夏は暑くて木枠の窓ごとはずして授業を受けた。我が校は冷暖房完備の学校だと友と談笑したもんだ。

（高・昭39卒　松下憲三）

○テストテストで明け暮れたという印象、先生方も大変だったろうと今さらながら頭がさがります。

（高・昭40卒　森山浩二）

○鶴ヶ嶺関（現井筒親方）が来校され握手したことが昨日のことのようです。ご子息の活躍にファンとして声援を送っています。

（高・昭42卒　太田みどり）

○部員の少なかった体操部と、水のつめたかった古めかしいプールで泳がされたことです。

（高・昭43卒　立山　茂）

○旧校舎のきしむ床と門を入ってすぐの大きな銀杏の木、秋には紅葉がとてもすばらしかった。

（高・昭44卒　井口由美子　旧森豊）

○NHK高校放送コンテストに参加した。それで補習が受けられず化学・物理がチンプンカンプンになりました。

（高・昭44卒　水津てるみ　旧岩田）

○在学中に新しいプールが出来上がり、あのおんぼろプールで泳いだ頃が懐しく思い出されます。

（高・昭49卒　塚田真由美）

〈現　代〉

○他校よりとてもぶ厚い鞄（他校は厚さ7センチ、母校は25センチ）を持って、重い思いで登校した。

（高・昭50卒　厚地優子）

○創作ダンスでミラージュというタイトルで音楽から振り付け衣裳すべて自分達の手作りで工夫し、それが一位になり文化祭で踊った事は忘れられない。

（高・昭52卒　梅田愛子）

○体育祭で砲丸投げに勝ち抜き、グランドの真中で投げたのだが種目が種目だけにはずかしかった。

（高・昭55卒　鹿児山由美子）

母校における想い出を多くの方々がお寄せくださいました。紙面の都合で一部割愛させていただきましたことをお詫びします。なお世代別タイトルは見出しとご理解ください。（係）